

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版），No.69, February 2009

---

---

ARSC 事務局：〒162-0485 東京都新宿区市ヶ谷本村町 2-9  
（財）計量計画研究所  
応用地域学会事務局 文部省学会コード = 10023  
会長：小林潔司 担当：宮本成雄  
TEL: (03)3268-9692  
FAX: (03)3268-9919  
E-mail: clerk@arsc.org

---

---

**主要項目：** 第 22 回研究発表大会報告  
2008 年度坂下賞  
2009・2010 年度 副会長選挙について  
第 23 回研究発表大会のご案内  
会員の入退会について  
2009 年度会費納入のお願い  
総会報告  
事務局だより

---

---

## 1. 第 22 回研究発表大会報告

大会実行委員：内藤 徹（釧路公立大学）

ARSCは例年，12月の初旬に研究発表大会を開催していますが，本年度は釧路という道内でも気候が厳しい地域での開催となったため，開催日程を例年より1ヶ月繰り上げ，2008年11月15日（土）・16日（日）の2日間にわたり，釧路公立大学（北海道釧路市）で開催されました。大会実行委員会は小磯修二釧路公立大学学長のもと大会に向けて準備を進めました。また大会に際しては，釧路市のMICE産業育成事業のバックアップにより，2008年度研究発表会が釧路公立大学で開催されるに伴い，ホテルの割引交渉や昼食の斡旋などの支援を受けました。今年度は招待講演を含め，43件の研究発表が行われました。

ARSCの研究発表大会は一般セッション，Early Birdセッション，特定セッション，シンクタンクセッションに分類されますが，今回は3つの会場と7つのセッションに分かれて行われました。このうちEarly Birdセッションが3と18の一般セッションに開催されました。一般セッションの

分類は内容に基づいて行われたため、実質的に特定セッションが含まれた形で開催されました。

大会では、混雑や航空といった交通・運輸関係の報告、不動産に関する実証分析、地方財政に関する理論・実証分析など多数の報告が行われ、活発な議論が行われました。ただ、地理的な原因のためか大学院生の報告が例年より少なかったように思われます。2日目は、霧の町、釧路らしく早朝から濃霧となり、午前・午後の主要な便が着陸できず、参加予定者の一部は女満別空港からの移動を強いられることになってしまい、大会に参加できなかった方が一部でございました。最終参加人数は137名でした。

第1日目の総会前に坂下賞受賞記念講演2007年度の受賞者である佐藤准教授の講演が行われました。例年であれば2007年度坂下賞選考委員会委員長である佐々木公明尚絅学院大学学長の進行のもとで行われますが、佐々木先生が公務のため今大会に参加できなかったため、田淵隆俊東京大学教授の進行のもと進められました。

坂下賞受賞記念講演につづき、2008年度の総会が開催されました。総会では、事業報告・会計報告が行われ承認されました。また2008年度の坂下賞の受賞は日本大学の村田安寧准教授に決定したことが報告され、総会終了後、授賞式が執り行われました。総会では、第23回研究発表大会が山形大学での開催されることになり、担当校の貝山道博教授より、ご挨拶が行われました。

懇親会では、会長である小林潔司京都大学教授による開式のご挨拶、大会委員長である小磯修二釧路公立大学学長の挨拶に続き、11月に釧路市長になったばかりの蛸名大也釧路市長にもご挨拶を頂き大会に花を添えていただきました。山田浩之京都大学名誉教授による乾杯の挨拶のもと開式し、中締めとして藤田昌久甲南大学教授、そして今年度の坂下賞を受賞された村田安寧准教授からご挨拶を頂きました。さらに新入会員の紹介と挨拶を経て、最後は井原健雄北九州市立大学教授に締めのご挨拶を頂き、盛会のうちに終了しました。

## **2 . 2008 年度坂下賞 (Sakashita Prize)**

2008 年度坂下賞選考委員会 委員長 岡部篤行(東京大学)

2008 年度の坂下賞については、選考委員会の慎重なる議論を経、以下のように村田安寧氏（日本大学）に決定しました。

### **2008 年度坂下賞**

**村田安寧**（むらた やすさだ）: 日本大学大学院総合科学研究科准教授

#### **推薦理由**

村田氏の主要な貢献は、空間経済学（new economic geography）、地域科学、開発経済学において理論を構築し発展させ、新分野を開拓したことである。

JUE に掲載された三編の論文は、空間経済学における分散力に関する一連の研究である。空間経済学のモデルには、企業間の連関による集積力がある一方で、分散させる力がある。2003 年の論文では、消費者の地域選好の異質性が分散力として働くこと、2004 年の論文では、通勤費用や地代が分散力として働くことを理論的に示した。また、2007 年の論文では、2003 年の論文をマーケティングの観点から分析を行った。

2008 年の JET 論文では、空間経済学のモデルを一般化した。Krugman の JPE 論文のモデルにない競争促進効果と、Ottaviano-Tabuchi-Thisse の IER 論文のモデルにない所得効果の両方を持ち合わせた理論モデルを開発した。

JDE に掲載された二編の論文では、地域間の移動とともに農業工業間の移動を扱い、農業生産と工業生産が相互依存的であることに着目したモデルを提示し、エンゲル法則、ペティの法則、および都市集積を内生的に導いた。

このほかにも、いくつかの興味深い研究を行っており、その成果をワーキングペーパーにまとめている。一例を挙げれば、都市財政におけるヘンリー・ジョージ定理が成り立つために効用関数が満たすべき性質に関する研究、企業の生産性が異質な場合に生じる市場均衡の分析などである。

いずれの研究論文も、厳密な理論に立脚し、緻密な論理を積み重ねて書かれており、かつ高度な分析をしつつ、豊かな内容になっていて、高く評価できる。また、都市・地域の経済成長、地域間の所得格差、社会厚生などの社会的課題にも言及しており、理論と同時に都市・地域政策的分析をも重視する応用地域科学の分野において、将来が非常に期待出来る本格的な研究者である。よって村田氏を坂下賞候補として推薦をする次第である。

#### 2008 年度坂下賞選考委員会

委員長	岡部 篤行	(東京大学)
委員	藤田 昌久	(甲南大学)
委員	金本 良嗣	(東京大学)
委員	小林 潔司	(ARSC 会長)
委員	田淵 隆俊	(ARSC 副会長)

坂下賞表彰式は、応用地域学会総会終了後に行われ、村田安寧氏には、小林潔司会長から、表彰状(盾)と金一封が授与されました。

### 3. 2009・2010 年度副会長選挙について

選挙管理委員 文 世一(京都大学)  
城所幸弘(政策研究大学院大学)

下記のように次期副会長選挙を行います。この副会長選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規 第3条に従い、会長指名により、京都大学の 文 先生と政策研究大学院大学の城所先生が務めます。(なお選挙管理委員であった瀬古先生は、副会長選挙の候補者に選ばれたので、代わって、文先生が選挙管理委員に指名されました。)

応用地域学会会則第7条により、現会長小林潔司先生（京都大学）の任期が2009年3月31日で満了となり、引き続き、現副会長田淵隆俊先生（東京大学）が会長に就任されます。それに伴いまして、次期副会長の選出を、会則第7条および選挙内規 に基き実施いたします。運営委員による無記名2名連記の投票の結果、次の3名の方が次期副会長候補者に決定いたしました（苗字アルファベット順、敬称略）。

**黒田 達朗（名古屋大学）      中村 良平（岡山大学）      瀬古 美喜（慶應義塾大学）**

よって、下記の要領で副会長選挙を行います。

会則第7条および選挙内規 では、全会員の無記名单記の投票を定めております。同封のはがきには、上記候補者の氏名があらかじめ印刷されています。次期副会長に適任であると思われる方一名に、**を付してご投函ください**。なお、**投票の締切は3月23日（当日消印有効）**とさせていただきます。会則7条は、副会長の次期会長への自動昇任を規定しております。今回選出される副会長の任期は2009年4月～2011年3月となり、会長としての任期は2011年4月～2013年3月となります。

#### **4. 第23回研究発表大会のご案内**

2009年度のARSC研究発表大会は、山形大学人文学部（山形市小白川キャンパス内）において、貝山道博先生を大会実行委員長、田北俊昭先生を中心に大会実行委員会が組織され、下記要領にて実施されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

**日 程：2009年12月12日（土）、13日（日）**

（総会、懇親会は12月12日を予定）

**会 場：山形大学人文学部（山形市小白川キャンパス内）**

発表申込み〆切：2009年8月末（予定）

論文提出〆切：2009年10月末（予定）

お問合せ：ARSC事務局

（発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号（6月発行予定）に掲載いたします。）

#### **5. 応用地域学研究・RURDS 編集委員長の交代と投稿案内**

11月の総会でも報告・承認されましたが、RURDS 編集に長年ご努力いただきました土井正幸先生（筑波大学）が、編集委員長を辞められました。後任に黒田達朗先生（名古屋大学）と中村良平先生（岡山大学）が、2009年の第1号の編集からあたられることになりました。それに伴い応用地域学研究所の編集委員長は、中村良平先生から、奥村誠先生（東北大学）が務められることになりました。

RURDS 並びに、応用地域学研究への投稿、問い合わせ先は、下記ようになります。  
( ARSC ホームページをご参照下さい。 )

## RURDS

Editors, Review of Urban & Regional Development Studies (E-Mail)

Tatsuaki KURODA ([rurds@cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:rurds@cc.nagoya-u.ac.jp))

Ryohei NAKAMURA ([rurds@e.okayama-u.ac.jp](mailto:rurds@e.okayama-u.ac.jp))

応用地域学研究

編集委員長 奥村 誠 (東北大学東北アジア研究センター)

TEL 022(795)7571 FAX 022(795)7477

E-Mail [mokmr@cneas.tohoku.ac.jp](mailto:mokmr@cneas.tohoku.ac.jp)

## 6. 日中共同セミナーの開催について

---

11月の総会で紹介されたARSC中国大会は、日中の地域科学の研究交流を目的とし、2008年度も、昨年同様に、10月18日(土)、19日(日)の二日間にわたって北京大学政府管理学院で開催されました。

2008年度の北京大会では、一日目午前中は、日中両学会の会長挨拶に続き、藤田昌久先生の特別講演、日中両学会の代表数名によるキーノートスピーチが行われました。1日目午後からと2日目は、3つの会場に別れ、日中合わせて42本の論文発表と討議がなされ、地域学の相互交流に、多いに盛り上がっていました。今回、日本側からの論文発表が、13点と若干少なかったのは少し寂しい気がしました。今回は、共同セミナー開催後の2日間、New Economic Geographyに関するintensive courseも設けられ(藤田昌久先生と曾道智先生が担当されました)、ARSCとRSAC(中国地域学会)との交流も定着し、これからも一層活発化していくことと思われます。

セミナー期間中、ARSCと中国地域学会の幹部による話し合いも昨年同様にもたれ、今後とも日中の地域科学の交流を継続的に進めていくことが再確認され、2009年度は、京都で日中共同セミナーを開催することになりました。2009年10月初旬(10月3日・4日)を予定していますが、日程の確定、開催内容等の詳細は順次お知らせ致します。

## 6. 会員の入退会について

---

2008年度総会(2008年11月15日)において、前回総会以降に入会を申し込まれた以下の方々について、入退会が承認されました(順不同・敬称略)。

### 入会

#### 一般9名

趙 来勲(神戸大学経済経営研究所)、福井紳也(大阪府立産業開発研究所)、浜潟純

大（財団法人電力中央研究所）、中西穂高（独立行政法人経済産業研究所）、松井和久（大阪大学）、福田公正（日本大学）、田村一軌（財団法人鉄道総合技術研究所）、瀬下博之（専修大学）、パ`ンテ`ィットサクンチャイ ホ`ング`サウ（財団法人電力中央研究所）

#### 学生7名

王 慶（同志社大学）、橘 洋介（早稲田大学大学院）、中野一慶（京都大学大学院）、石野卓也（慶應義塾大学大学院）、小林秀二（筑波大学大学院）、高山雄貴（東北大学大学院）、成 知恩(ソ`ジ`ウ)（京都大学大学院）

同時に以下の方々のご退会が承認されました（敬称略）。

#### 退会

##### 本人の申し出によるもの（一般7名、学生1名）

埴淵知哉（日本福祉大学）、杉田 浩（財団法人計量計画研究所）、安 祺（大垣共立銀行グループ共立総合研究所）、水野 勲（お茶の水女子大学）、西村周三（京都大学）、寺本光雄（太成学院大学）、丹治三則（慶應義塾大学）、黒木悠輔（九州大学大学院）

この結果、2008年11月15日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 399名、学生会員 51名、海外会員 9名、賛助会員 12機関（計 18口）となります。

		2008年1月	入会	退会	転格	2008年11月
個人会員	一般会員	388	9	-7	9	399
	学生会員	54	7	-1	-9	51
	海外会員	9	0	0	0	9
	合計	451	16	-8	0	459
賛助会員		12	0	0	0	12

## 8. 2009 年度会費納入のお願い

会員データベースに基づいて発行された請求書を同封しています。ご請求額を3月23日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の明細を必ずご記入下さい。

### (1) ARSC 会費

2008 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)は、ARSC 年報を購読される場合\$80、RURDS のみの場合\$60 です。なお、海外からお支払いの場合は、日本国内の知人を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

## (2) RSAI (国際地域学会) 会費

RSAIの年会費は、会員に対するサービス内容に対応して以下の通り、A、Bの2種類あります。サービス内容をご確認の上申し込みください。

RSAI 会員のサービス等は、Wiley-Blackwell 社を通じて行われています。ジャーナル“Papers in Regional Science”も、Wiley Interscience 上で閲覧できるようオンライン化されています。(Papers in Regional Science は、印刷冊子としての購読もできます)

### ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを希望の場合 (A)

一般会員： ¥7,800

学生会員： ¥3,800

#### <サービス内容>

- ・ジャーナル (PiRS) の郵送による受け取り
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・ニュースレターの郵送による受け取り
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス

### ジャーナルや情報への電子アクセスのみを希望の場合 (B)

一般会員： ¥1,600

学生会員： ¥1,200

#### <サービス内容>

- ・PiRSの電子コピー (Eメールによる受け取り)
- ・Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・RSAIホームページへのアクセス
- ・ニュースレターの電子コピー (Eメールによる受け取り)
- ・RSAIの会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス

#### <会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、新規に入会を希望される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入してください。また、退会、サービス区分の変更等がある場合は、その旨、払込票の通信欄にご記入ください。

(この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI会員サービス提供の手続きを行います。)

#### <RSAIの会費納入>

希望するサービス内容の金額をARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

## 9 . 総会報告

---

2008年度の総会は、11月15日(土)、釧路公立大学において行われました。概要は以下の通りです。

### 議題及び要旨；

#### 1) 学会活動報告及び活動方針

小林潔司会長より、2008年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

#### 2) 会員異動報告 (前掲)

#### 3) 2007年度決算(別掲)

#### 4) 2009年度予算(別掲)

#### 5) 応用地域学会 2008年度坂下賞

坂下賞選考委員会委員長岡部篤行先生(東京大学)より、2008年度の坂下賞についての選考経緯と受賞者の発表がされました。

(授賞者 前掲、2008年度選考委員 別掲)

#### 6) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

##### 応用地域学研究

応用地域学研究所の編集委員長は、RURDSの編集委員会のメンバー変更に伴い、2009年より、岡山大学の中村良平先生から、東北大学の奥村誠先生に代わることが報告了承されました。(前掲)

##### RURDS

RURDSの編集委員長は、長年筑波大学の土井先生が務められてきましたが、新しく、名古屋大学の黒田達朗先生と岡山大学の中村良平先生を中心に編集委員会を組織し、編集に当たることが報告され了承されました。(前掲)

また、Wiley-Blackwell社から出されていた、2009年からのRURDS購読費の値上げ(年間6,200円を6,380円に)についての報告があり、総会において了承されました。

#### 7) 2009年度研究発表大会の開催について

(前掲)

#### 8) 2009年度日中共同セミナーの開催について

2009年度の日中共同セミナーは、10月の初めに京都で開催することが報告されました。(前掲)

## 9 . 事務局だより

---

ARSC事務局 宮本成雄

第22回ARSC研究発表大会は、釧路公立大学で開催され、大変な活況を呈しておりました。懇親会には、蝦名釧路市長もご臨席され、最後まで、参加されていた方々と懇談されていました。今大会の陣頭指揮を取られた大会委員長の小磯修二先生並びに内藤徹

先生の大変なご尽力をはじめ、釧路公立大学の皆様、プログラム委員長を勤められた山崎福寿先生（上智大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

**副会長の選挙**です。2009年度からの2年間、ARSC会長の補佐役をいただくとともに、2011年度からは、ARSC会長として、ARSCの運営にご尽力をいただきます。年度末を控え、そして新年度への準備と、何かとご多忙の折かと思いますが、大変重要な選挙です。お忘れなきようお願い申し上げます。

地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。個人会員用の入会申込書はARSCのホームページ(<http://www.arsc.org/arscform-j.html>)より入手可能です。また、Emailによるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項をARSCホームページにてご確認の上、必要事項を記入して [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org) 宛てに Email でお申し込み下さい。

## **2007年度決算書**

**“ 監査委員の印のある決算書を入れる。”**

## 2009年度予算書

収入の部	2007年度決算		2008年度予算		2009年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,087,817	0.00	7,473,728	0.00	6,781,728	0.00
2.個人会費収入	4,053,672	0.00	4,600,000	1,800.00	4,525,000	1,800.00
3.RSAI会費	208,200	0.00	284,900	0.00	348,000	0.00
4.賛助会費収入	1,100,000	0.00	1,100,000	0.00	1,100,000	0.00
5.補助金(科学研究費補助)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
6.大会参加費収入	823,412	0.00	235,000	0.00	835,000	0.00
(年次大会)	445,000	0.00	60,000	0.00	535,000	0.00
(日中共同セミナー)	378,412	0.00	175,000	0.00	300,000	0.00
7.大会開催寄付金	400,000	0.00	0	0.00	0	0.00
8.利子収入	8,667	0.00	0	0.00	0	0.00
9.雑誌販売(Back Number)	55,450	0.00	0	0.00	0	0.00
10.その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
収入合計	14,737,218	0.00	13,693,628	1,800.00	13,589,728	1,800.00
(繰越金を除く収入合計)	6,649,401		6,219,900	1,800.00	6,808,000	1,800.00
(ドル貨を含む)			6,342,900		7,006,000	

支出の部	2007年度決算		2008年度予算		2009年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	2,652,583	0.00	3,224,000	0.00	3,224,000	0.00
(編集発行費)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
(会員購読費)	2,652,583	0.00	3,224,000	0.00	3,224,000	0.00
2.年報刊行費	1,155,339	0.00	1,000,000	0.00	1,050,000	0.00
3.大会開催費	2,017,762	0.00	1,325,000	0.00	1,820,000	0.00
(年次大会)	1,139,350	0.00	650,000	0.00	1,020,000	0.00
(日中共同セミナー)	878,412	0.00	675,000	0.00	800,000	0.00
4.RSAIへの送金	333,683	0.00	284,900	0.00	348,000	0.00
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	0.00
6.名簿印刷費	0	0.00	50,000	0.00	0	0.00
7.ニューズレター等印刷費	114,450	0.00	100,000	0.00	110,000	0.00
8.一般事務費	268,673	0.00	280,000	0.00	240,000	0.00
(郵送費)	133,840	0.00	200,000	0.00	150,000	0.00
(消耗品等)	23,478	0.00	10,000	0.00	20,000	0.00
(謝金等)	100,680	0.00	50,000	0.00	20,000	0.00
(銀行手数料)	10,675	0.00	20,000	0.00	50,000	0.00
9.事務局費	600,000	0.00	600,000	0.00	600,000	0.00
10.予備費	0	0.00	50,000	0.00	50,000	0.00
支出合計	7,263,490	0.00	7,034,900	0.00	7,563,000	0.00
繰越金	7,473,728	0.00	6,658,728	1,800.00	6,026,728	1,800.00
ドル貨円換算(手数料を除く)	0		123,000		123,000	
繰越金合計	7,473,728		6,781,728		6,149,728	

注1; 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。